

始めた。

議論の焦点は以下の点にある。

1. 基幹的大学と地方大学の間で医学系大学院の設備等に格差がみられる。大学院 GP などを利用して大学院相互の連携が図られてはいるが、成果が上がっているとはいえない。
2. 上記の点を考えると、現状のように 80 医学系大学の全てに大学院が併設されるより、集約化して研究器材や研究資金を集中的に投資すべく、大学院の再編を図ることが考えられる。
3. 研究者 / 教育者の道を進む大学院学生に修学

中の経済的支援を厚くし、修了後のポストの提供などを行う必要がある。大学院学生が真に研究生活に没頭できる環境の整備も必要である。

4. 大学院入学後の教育として、旧来の小講座の枠をこえた大学院教育のカリキュラムを作り、研究手法の取得などを幅広く行えるシステムの構築が求められる。

これらを本邦の大学院の実態調査や欧米の研究者養成の調査とあわせて提言していきたい。

## 11. 情報基盤開発委員会

大西 弘高（委員長・東京大学医学教育国際協力研究センター）

近年、医学教育の重要性に対する認識が拡がり、専任の教員数や部署が増え、専門性も高まってきた。学会関係者の間では、専門用語が用いられる機会が増えているが、逆にこの業界に新規参入する方々、一般の方々にとっては敷居の高い、あるいは内向きな集まりであると映る可能性がある。また、医学教育が持続的発展をするためには、医学教育研究が行われていくべきだが、自然科学系の研究に慣れ親しんだ先生方においても、医学教育関連の研究論文を包括的にレビューすることは難しく、これが研究を遠ざける原因にもなっている。

従来、日本医学教育学会では4年に一度「医学教育白書」を刊行し、理事を中心としたメンバーが各領域に関する記事をまとめることで、これらの必要性に対応してきた。しかし、アクセスしやすく、情報のアップデートもより容易になるよう

なデータベース構築は、各国の医学教育関連学会が次々と着手し始めている業務の一つであり、日々発展を続ける医学教育領域においても重要な課題である。日本医学教育学会は、2009年度に情報基盤開発委員会の設置を決定した。医学教育用語や文献情報をはじめとした医学教育に関する諸々の情報をとりまとめ、医学教育に関心を持つすべての人が活用しやすい情報基盤を提供することを目指している。

まだ活動が始まって1年余りだが、「医学教育白書2010年版」刊行と、ウェブ上の情報基盤である「医学教育情報館（Medical Education Assets Library : MEAL）」構築に向けた作業を急ピッチで進めている。医学教育白書は7月末の大会において上梓予定、MEALは今年秋頃に一部を公開予定としている。当委員会の活動が皆さまの一助になれば幸甚である。